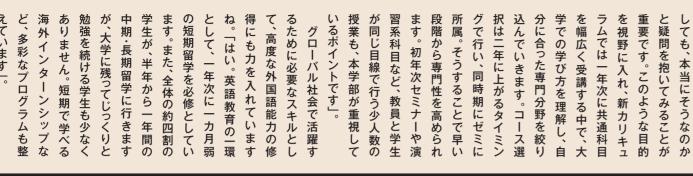
Turning Point





で自ら探求し に対して、 教員が話す内容に関 答えを出すの

る学び まだ誰も答えを知らない問 強とは本質的な部分で異な ラム導入に併せて、 えを知ってい ます。 制 の お から五コ 話です。 して頑張るという勉 は、先生は百 部長の ス選択の 合 学生生活の中 「大学におけ 生徒はそれ - ス制に変 「点の答 和則 期や 四口 わ ħ ま

平和学習の在り方を研究中

海外インターンシップは短期でも深い学びがあります

永江早紀さん 社会動態コース 4年

校までの勉強に疑問を感じ、大学進学につい ても前向きではありませんでした。そんな時、 高校の先生から「大学はあなたみたいな人が行く場所」 と言われ、背中を押される形で受験。大学では、先生 方が研究されていることを共有して下さり、その中か ら疑問点を見つけることができます。答えを教えるの ではなく、自分自身で考えを深めるように導いてくれ るんです。興味深い科目もたくさんありますし、考える ことが得意な仲間たちと議論を交わす時間もとても有 意義。この学部で学ぶようになってから、勉強に対す る意識がガラリと変わりました。

3年次には、自主企画の海外インターンシッププロ グラムにチャレンジしました。行き先はハワイのパー ルハーバー。エデュケーションディレクターの下で パールハーバー内の展示物についてディスカッション を行い、現地の教育機関や高校にも出向いて交流しま した。私はもともと国際情勢に関心があり、核兵器廃 絶長崎連絡協議会が主催する人材育成プロジェクト 「ナガサキ・ユース代表団」の7期生として、平和活動 にも取り組んでいます。インターンシップを通して、過 去の出来事や先人たちの存在が今の自分につながっ ていると実感しました。だからこそ、例えば平和教育 を軸に置いた長崎とハワイをつなぐプロジェクトな ど、これからを考えるための新しい平和教育が必要だ と考えています。実は卒業後の進路は未定です。自分 がやりたいこと、ワクワクする気持ちに正直でいたい

と思っているので、新しい進路を模索しています。

アジアのトイレ事情調査がきっかけ! 多くの人の住環境を向上できる仕事に就きたい

田村絵里花さん グローバル社会コース 4年

期・長期留学を挟みつつ、4年間で卒業 でき、奨学金制度など金銭的な援助シス テムが充実している大学を希望していたところ、 条件にぴったりだったのがこの学部でした。入学 後は、留学資格に必要な成績をクリアするため 猛勉強。完璧主義でもある私は、特に2年から3 年前期まで、授業、語学学習、レポート提出に加 え、アルバイトもこなすめまぐるしい日々を過ご しました。挫けそうになりましたが、私と同じよう に夢を持って頑張っているコースの仲間たちに 支えられました。

留学先はタイのバンコクにあるカセサート大学。 3年後期から半年間留学しました。留学に当たって は日本学生支援機構の奨学金制度を活用したので すが、バンコクは物価も安く、金銭的な負担を感じ ることはありませんでした。現地では、大学の勉強 と並行してアジアにおけるトイレ事情について調査 を行いました。世界中の3人に1人が、安全で衛生 的なトイレを使えないと言われています。例えば、 交通網やインターネット環境は日本と同等に整って いる国でも、トイレに関してはそうでないのはなぜ だろう。そんな疑問から発展したテーマです。現地 トイレメーカーのショールームに足を運んだり、タイ 人の友人に意識調査を行ったり、都市部と農村にお けるトイレの違いについて調査したりもしました。よ り多くの人々の住環境を快適にしたい。そんな夢が 膨らみ、ハウスメーカーやトイレを含む住宅設備機 器メーカーに焦点を絞って就職活動中です。



完璧主義で自分自身を追い詰めてしまう 時もありました。生活リズムがゆったりし ているタイの大学で学んだことで「でき る範囲のことをやればいいんだ」と気持 ちに余裕を持てるようになりました。





留学中は制服で登校していた田村 さん。「留学前に、卒業単位に必要 な授業はたくさん履修しておいたの で、帰国後は余裕を持って就職活 動に取り組めています」。

夢に向かって共に頑 張れる仲間に出会う ことができます

ンが明確になりました 永江早紀さん NAGAE Saki

関心があるのは国際情勢

この学部で将来のビジョ

大学進学に違和感 を感じつつ受験。

> School Global **Humanities** and Social **S**ciences